

THANKS

BUSINESS NEWS LETTER

(VOL. 181)

発行日：平成24年7月1日
発行者：有限会社サクスマインドコンサルティング
連絡先：〒359-1118
埼玉県所沢市けやき台 1-41-11
TEL:04-2922-1417
E-MAIL：info@thanksmind.co.jp
<http://www.thanksmind.co.jp>

特集

「日本一わかりやすい会計の基本⑩ ～ 貸借対照表とは何か？」

今、本誌では「日本一わかりやすい会計の基本」というテーマで特集しています。前回までは、主に「損益計算書」について説明してきましたが、今回からは、一步話を前に進めます。損益計算書の相棒である「貸借対照表」について確認して行きましょう。

●「損益計算書」と「貸借対照表」

「損益計算書」と「貸借対照表」は企業の決算書の二本柱。会社の健康状態を知る上での基本的な資料です。

本誌の174号で、まずは損益計算書について、以下のように説明しました、

損益計算書とは、一定期間でどれだけの利益を稼いだのかを確認するための道具

・・・**会社の家計簿**

損益計算書は、会社の状態を確認する上で、極めて重要な道具です。

しかし・・・

本誌175号で説明した「売上原価」を思い出してください。

20万円のロレックスを1個買ってきて、それを30万円で売っても、5個買ってきて1個しか売れなくても、利益（売上総利益）は両方ともに「10万円」では変わりませんでしたよね。

（※売上＝30万円 売上原価＝20万円、売上総利益＝10万円）

それでは、この場合、会社の状態は同じなのでしょうか？

もし、1個買ってきて、1個売れて10万円の利益だったら、あなたはきっと喜ぶでしょう。

しかし、5個買ってきて、1個しか売れなかったら、逆に困りませんか？

「さて、残りの4個をどうするか？」

きっと頭を悩ますことになるでしょう。

要するに、損益計算書で「いくら儲かったのか？」だけを把握しても、本当に企業の健康状態は分からないのです。

だからこそ、貸借対照表が必要になってくるのです。

貸借対照表は、以下のように説明できます。

ある時点で、会社が持っている財産と、その財産を作っている財源を確認するための道具
・・・財産明細／借金明細のようなもの

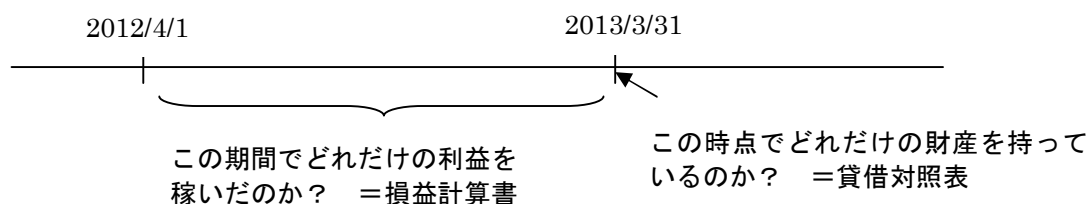
貸借対照表は損益計算書の「相棒」であり、必ずセットで作成されますが、この2つの決算書には、根本的な違いがあります。

それは、「期間」と「時点」の違い。

損益計算書は、「一定期間（通常1年）」の間に、どれだけの利益が得られたかを確認するものですが、貸借対照表は、「ある時点」における財産や財源を示しているものです。

まずは、この違いをしっかりと押さえておきましょう。

<損益計算書と貸借対照表の関係>



●「貸借対照表」の構造

貸借対照表は、通常、次ページのような2つの「箱」でできています。

左の箱は「資産の部」といって、その会社が、その時点で持っている「財産」が書かれます。

一方、右の箱は、「負債及び純資産の部」といって、その財産を作っているお金の出所（財源）が書かれます。

ちなみに、財源の「負債」と「純資産」ですが、「負債」とは借金のことで「純資産」とは自分のお金のこと。

左右の箱を合わせて読むと、「ある時点で、××円分の財産を、借金××円と、自分のお金××円で作っている!」となります。

従って、この左右の箱の合計金額は必ず同額。

貸借対照表は英語で「バランスシート (Balance Sheet 略してB/S)」と言いますが、これは、「左右箱の合計金額が常に同じ (= バランスしている)」という意味からきています。

<雑学>

損益計算書は、英語で「Profit and Loss Statement (略してP/L)」と言います。

「Profit」は利益、「Loss」は損失、「Statement」は報告書の意味。

直訳をすれば、「利益損失報告書」となるところですが、誰かが「損益計算書」と訳したのでしょう。

このように、日本の会計は、外国のものを輸入したものがほとんどであり、例えば、数字に3ケタずつ「,」を入れることもその表れ。

「1,000」はthousand、「1,000,000」はmillion、「1,000,000,000」はbillion。

ちょうど良い区切りですね。

日本だったら、4ケタずつの方がピッタリなのに・・・

分かり難いってありやしない。

貸借対照表の基本形

資産の部		負債の部	
財産 →		負債合計	××円
		純資産の部	
		純資産合計	××円
	資産合計	××円	負債・純資産合計

← 財源（調達方法）

┌──────────┐
左と右の箱の合計は変わらない

●身近な例で「貸借対照表」を作ってみよう！

・・・と説明してきても、なかなかイメージがつかないでしょう。会計を理解するには、身近な例で考えてみるのが一番です。ということで、いつもの通り、身近な例で貸借対照表を作ってみましょう。

- ① 4月1日にあなたは、手元に500万円の貯金があります。
- ② 5月1日に子供が大きくなったので、3,000万円のマンションを買いました。
頭金として300万円払い、残りの2,700万円は住宅ローンにしました。
- ③ 6月1日に引っ越しにあたり、50万円分の家具を購入しました。
- ④ 7月1日に100万円のボーナスが入りました。
- ⑤ 8月1日にそのボーナスで借金を50万円返済しました。

さて、上記のような場合、それぞれの時点での貸借対照表はどうなっていると思いますか？

①手元に500万円の貯金がある

資産の部		負債の部	
貯金	500		
		純資産の部	
		自分のお金	500
合計	500	合計	500

貯金はもちろん財産。
そして出所は、自分のお金。
スタートの段階では、「貯金 500 万円を
自分のお金 500 で作っている」と
なります。

②3,000万円のマンションを買った！

資産の部		負債の部	
貯金	500	ローン	2700
	-300		
	200		
		純資産の部	
		自分のお金	500
マンション	3000		
合計	3200	合計	3200

3000 万円のマンションが財産に加わり
ます。
貯金から頭金を支払っているので、貯金
は、この段階では 200 万円。
合計 3200 万円の財産を、ももとの
自分のお金の 500 万円と、今回新た
に借入した 2700 万円で作っています。

③50万円の家具を買った！

資産の部		負債の部	
貯金	500	ローン	2700
	-300		
	-50		
	150		
		純資産の部	
		自分のお金	500
マンション	3000		
家具	50		
合計	3200	合計	3200

50 万円の家具はもちろん財産。
貯金から買ったので、この時点での貯金
は 150 万円になっています。
しかし、財産合計は 3200 万円と②の時
点と変わらないので、右側の財源も変わ
りません。
このケースは、「貯金という形の財産が
家具に形が変わっただけ」と理解すれば
分かりやすいでしょう。

④ボーナスが100万円入った！

資産の部		負債の部	
貯金	500	ローン	2700
	-300		
	-50		
	100		
	250		
		純資産の部	
		自分のお金	500
			100
マンション	3000		600
家具	50		
合計	3300	合計	3300

ボーナスによって、貯金が 100 万円増
加し、それによって財産合計が 3300 万
円になりました。
ボーナスはもちろん自分のお金。
純資産が 100 万円増加し、左右の箱の
合計がバランスします。

⑤借金を50万円返した！

資産の部		負債の部	
貯金	500	ローン	2700
	-300		-50
	-50		2650
	100		
	-50		
	200		
		純資産の部	
		自分のお金	500
			100
マンション	3000		600
家具	50		
合計	3250	合計	3250

借金を 50 万円返済したので、その分の
貯金が減少します。
一方、負債も同額の 50 万円減少します。
この時点では、財産は貯金 200 万円、
マンション 3000 万円、家具 50 万円の
合計 3250 万円。
右側は負債 2650 万円と自分のお金 600
万円の合計 3250 万円。
これがこの時点での貸借対照表です。

いつもイコール

<次回に続く>